



賢く 優しく 逞しく

12月号・令和5年12月1日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校

ありがとうウィーク

校長 榎戸 千代子

令和5年も最後の月、「師走」を迎えました。二十四節気の一つである「冬至」（とうじ）は、12月22日（金）です。一年で太陽が出ている時間が一番短い日となります。「冬至」には、ゆず湯に入り、カボチャを食べる風習があります。



ゆずはビタミンCが豊富で美肌効果があり、ゆず湯に入ると体が温まって風邪や冷え性に効くと言われています。また、カボチャも栄養価が高く、免疫力を高める効果があります。体を温め、バランスの良い食事を取り、これから向かう寒い冬を乗り切りましょう。

12月10日（日）は、「世界人権デー」、日本でも12月4日（月）～10日（日）まで「人権週間」です。東京都教育委員会の『人権教育プログラム』では、「人権」とは、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」とあります。本校は、平成29、30年度に東京都の人権尊重教育推進校に指定されました。平成30年12月には研究発表会を行ったことから、12月を「人権尊重教育強化月間」と定めています。



この当時、生徒の中から「人権標語」を募集し、その中から「言われても言ってもうれしいありがとう」が選ばれました。この標語には、人が傷つく言葉ではなく、自分が相手にしてもらってうれしい気持ちや感謝の気持ちを「ありがとう」という言葉で相手に伝えようという思いが込められています。それ以来、生徒会では、この思いを受け継ぎ、「ありがとう」という温かい、思いやりの気持ちを広めるため、「ありがとう」の「とう」から、毎月「10（とう）日」の入った週に「ありがとうウィーク」、「0」のつく「20日」と「30日」を「ありがとうデイ」と設定しています。「ありがとうウィーク」や「ありがとうデイ」には、自分がしてもらってうれしかったことを相手に伝える手紙にして、給食の時間に放送で紹介しています。また、紹介された手紙は、「ありがとうの木」に貼り、理科室前の階段の柱に掲示しています。紹介の度に手紙の花びらが増え、大きな花を咲かせています。

この他、生徒会では今年度も10月26日（木）に、校区小学校の二小、八小、十小の児童会と都立武蔵村山高校生徒会の皆さんを招き、「五中サミット」を開催しました。サミットでは、本校生徒会が司会、進行を務め、「いじめ防止」に向けた各校の取組と「いじめ防止標語」を紹介し合いました。本校のいじめ防止標語は、「その言葉 大事な人に言えますか」です。言葉は刃物や凶器よりも人の心を傷つけます。言葉を発するときには相手のことを思って発しましょうという生徒会から全校生徒への強いメッセージが入っています。また、武蔵村山高校生徒会の皆さんからは、「一度入ったヒビはなおらない」と「いじめを するな させるな みのがすな」という二つの標語の紹介がありました。本校の「いじめ防止標語」は11月20日（月）の生徒会朝礼で生徒会役員の皆さんが全校生徒に紹介し、「いじめ防止」を呼びかけました。それぞれの学校で作った標語は各階の廊下に掲示してあります。思いやりの言動ができる第五中学校にしていきたいと思います。

五中では、1年生は人権課題「子供（いじめ）」と「高齢者」、2年生は「障がい者」、3年生は、「外国人」と「SDGs」について学んでいます。「子供（いじめ）」では、弁護士の方や人権擁護委員さんによる講話や高齢者疑似体験などを行っています。2年生は、先月、車いすバスケットボールの元パラリンピック選手の方をお招きして実技体験と講話を実施しました。3年生は3学期に「国際理解」をテーマに地球規模での人々の共生や平和、自然環境等について日本ユニセフ協会の方をお招きして学んでいきます。この各学年の学びが、自分たちの住む武蔵村山市の人々とどう接し、どう関わっていけばよいのかという「まちづくり学習」につながっていきます。